

坊田かずまの年譜

明治三十五年（一九〇二）
明治四十三年（一九一〇）

十月十日、広島県安芸郡本庄村（現熊野町川角）に父浅次、母シナの次男として生まれる。本名は壽真。四月、広島県安芸郡本庄北尋常小学校に入学する。

卒業後、安芸郡熊野町尋常高等小学校高等科に進み、大正六年三月三十一日卒業する。

大正六年（一九一七）

広島師範学校第一部（現広島大学教育学部）に入学する。

大正九年（一九二〇）

小学校教員免許状を取得し、広島県安芸郡畑賀小学校に赴任する。

大正十年（一九二一）

雑誌「赤い鳥」の童謡作曲に応募し、推薦曲譜として入選する。

大正十一年（一九二二）

小学校教員免許状（音楽専科正教員）を取得する。雑誌「赤い鳥」に再び入選する。

広島県安芸郡小屋浦小学校に転勤する。

大正十二年（一九二三）

依願退職して上京し、東洋音楽学校に入学する。

作曲家小松耕輔、草川信に師事して作曲の道を歩む。弘田龍太郎の講義も受けている。

関東大震災を機に帰郷して、以後五年間呉市二河小学校で音楽専科教員となる。

大正十三年（一九二四）

三宅昶と結婚。昶は「三宅のぶ子」として作詞家の道を進み、夫婦で多くの作品を生み出している。

三宅昶は童謡詩人、葛原しげるの遠縁にあたる。

「赤い鳥」入選。

昭和四年（一九二九）

夫婦で上京し、かずまは麻布三河台小学校、昶は江東小学校の教員となる。

「日本郷土童謡名曲集」、「やさしい独唱と輪唱名曲集」、「坊田かずま作曲集」、「日本子守唄集」、「心理化・作業化・唱歌総合教育」等次々に刊行する。

三河台小学校で独自の音楽教育を行い、楽器・合奏指導の先駆者としてラジオに出演してレコードの吹込みを行い、また演奏指導は「アサヒグラフ」の海外版にも写真入り記事で紹介される。

本願寺の保育教材の作曲などに力を注ぐ。

病気のため療養を兼ねて帰郷し、呉市土肥高等女学校の音楽講師を務める。

昭和十四年（一九三九）

「やさしく歌える国民合唱曲集」、「日本旋律と和声」を完成させる。

昭和十七年（一九四二）

二月三日、病状悪化し、死去（満年齢三十九歳）。